

様式【学校評価資料】

池田小学校

学校経営目標	具体的計画	令和4年度の達成基準	自己評価(中間)			自己評価(最終)			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
(学 び 可 な 学 力 の 育 成)	①朝学習や朝の会の機会を利用して基礎学力や聞き方・話し方の充実を図る。 朝学習: 運筆練習、計算、音読、暗唱 朝の会: スピーチ、トークタイム	意識については、主に学校評価アンケートをもとに評価する。 ○朝学習で自分が設定した目標得点以上達成した児童が90%以上である。	10月の達成状況は、漢字42% 計算25%であった。	C	朝学習の目標と月ごとの結果を記入し、各自で達成状況を確認することを継続する。 【10月末までの結果】 漢字 2年 50% 3年 0% 4年 57% 5年 0% 6年 50% 平均 42% 計算 2年 0% 3年 0% 4年 71% 5年 0% 6年 0% 平均 25%	漢字84% 計算76% (タイムの平均96%)	B	・朝学習の目標と月ごとの結果を記入し、各自で達成状況を確認することを継続する。 【12月末までの結果】 漢字 1年 67% 2~4年 100% 5~6年 67% 平均 84% 計算 1年 100% 2年 75% 3年 100% 4年 71% 5年 67% 6年 60% 平均 76% 100マスの12月のタイムが9・10・11月の3か月分の平均以上96%	・自己評価は適切である。 ・目標の設定を児童とともに見直して良かった。
	②国語・英語・学級活動等の内容を充実させ、表現活動の充実とコミュニケーション能力を育成する。 ・授業での対話時間の意図的な設定 ・コミュニケーションツールの活用 ・話し合いの基盤づくり	○「進んで自分の考えを伝えることができる。」児童・保護者・教職員90%以上である。	アンケート結果より 児童88% 保護者92% 職員40%	B	朝の会で、3~4人で話す「トークタイム」を設定し、会話の楽しさを味わうことができるようにする。その際に代表者が全体の場で内容を伝えるようにし、大勢の前で話す経験もできるようにする。また、授業中にもペアやグループの話し合いを計画的に入れることで、話す経験を積むことができるようにする。	アンケート結果より 児童88% 保護者96% 職員60%	B	・現状の取組を続けて伝えあうことにさらに自信がもてるようにする。 ・縦割り班活動などで計画・練習・実践(発表)・振り返りをする中で、ついた力を発揮できるように励まし、頑張っ続けてきたことが役に立ったという経験ができるようにする。	・自己評価は適切である。
	③家庭学習の充実させ、読書活動を推進する。 ・自主学習の取組を継続し、家庭学習の時間を確保する。 ・おすすめの本リストの活用」と「読書マラソン」の記録によって視覚化を図る。	○「家庭学習をきちんとしている。」児童・保護者 90%以上である。 ○「読書が好き。」児童 90%以上である。	「家庭学習にきちんと取り組んでいる」児童96% 保護者73% 「読書が好き」児童84%	B	・自学ノートの内容について、職員間で共有を密にした。授業とのつながりを意識できるように指導したりして、家庭学習の時間がより充実したものになるようにする。 ・国語科は、担任・算数科は専科が担当とし、学習の様子を確認できるようにする。 ・家庭学習の時間に目が向くように、音読カードへの記入の仕方を工夫する。また、スマイル教室指導員や保護者にも協力を依頼する。 ・広報委員会の活動を工夫し、児童が主体的に読書する環境を整える。	「家庭学習にきちんと取り組んでいる」児童92% 保護者86% 「読書が好き」児童81%	B	・現状の取り組みを続ける。教室に工夫した使い方のノートを掲示し、意欲付けを図る。 ・大型絵本読み聞かせ、新聞社2社の児童向け紙面の配置、児童の作品の展示などといった、委員会の取組や環境整備を続ける。 ・読み聞かせやブックトークなど、読書の楽しさを伝えるものを増やす。	・自己評価は適切である。
(心 豊 か な 心 の 育 成)	①全校児童で「元気」「やる気」「根気」を合言葉に、お互いの頑張った姿を見つけ認め合う関係をつくる。(心優しい子供)	○「友達を大切にしている」保護者90%以上である。 ○「自分には良いところがある。」全国調査 6年生90%以上である。	保護者100% 児童100%	B	・「元気」「やる気」「根気」について書いた葉のカードを箱に入れるのではなく、本人に直接渡しに行き、もらった人が箱に入れに行くようにすることで、自分の頑張りを友達が見てくれていることに気づきやすいようにしている。また、「元気」「やる気」「根気」とは、どのようなことが書けるかをもう一度確認したり、学習の振り返りでカードを活用したりすることで、カードに書くハードルを低くすることに効果が出ている。	保護者100% 児童100%	B	・「元気」「やる気」「根気」のカードを友達に渡す取り組みも定着し、全校で247枚の葉っぱを友達に書いて渡すことができた。また、人権週間に取り組んだ「すてき」の花でも、友達のすてきだと思ったところを書いて渡す姿がたくさん見られた。これらの取組は、友達のよさを見つける目を養ったり、自分が周りの人から認められていることに気づきかけになったりした。 ・児童の仕事を精選し、自分たちで誘い合ったり自由に遊んだりする時間を多く確保する。そうすることで、気持ちに余裕が生まれ、自分や友達をしっかりと見つめ、認めることができるようになると思う。	・自己評価は適切である。 ・「葉っぱ」の取組は、効果があると思う。
	②異学年、異校種の交流による学びやピアサポートを充実させ、学年の自覚を育むとともに、交流することの楽しさや達成感を味わわせる。(心優しい子供)	○「学校へ行くのが楽しい。」児童90%以上である。	92%	B	・なかよし班遊びやふれあい遊びなどの活動を設け、それぞれの活動の中で自分の居場所を感じられるように、役割分担を行う。また、活動の後に振り返りを設けることで、次の活動につなげることができるようにする。	84%	B	・山の学習で班の仲間で課題を解決したり、ふれあい遊びの準備でそれぞれが役割をもって仕事をしたりすることで、なかよし班の中に自分の居場所を見つけ、安心する場となった児童は多くいるように思われる。 ・「心の天気」を活用し、日々の児童の心の揺れを素早く把握し、声掛け等の対応をすることで、「学校へ行くのが楽しい」と思える児童を90%以上にしていきたい。	・自己評価は適切である。 ・心配な児童を追跡し、慎重に見守ってほしい。
	③市内の小学校との交流 ・まきび支援学校との居住地校交流	○「よい生活習慣が身についている。」児童・保護者90%以上である。 ○「家庭や地域で進んであいさつをしている。」児童・保護者・教職員90%以上である。	保護者100% 児童92% 教職員100% 保護者92% 児童92%	A	・どの項目においてもB層「だいたいあてはまる」の割合をA層「あてはまる」に引き上げたい。そのためにも、具体的なめあてを個々にもち、成功体験を積み重ねる中で自信を深めていくことができるようにする。 ・他者、或いは相互評価等、第三者からの評価を受け、周りから客観的に見たときの視点も交えて取り組むようにする。	保護者92% 児童81% 教職員80% 保護者96% 児童92%	B	・来年度、朝の時間に「あいさつ隊」によるボランティアを行う。 ・保護者との連携を密に取り、学校と家での様子を共有する中で、それぞれの立場から児童に声をかけていくようにする。 ・模範となる挨拶ができていない児童を積極的に称揚する。	・自己評価は適切である。 ・「あいさつ隊」によるボランティアに期待している。お手本を見つけてしっかり褒めて伸ばしてほしい。 ・大きな声であいさつができるのが望ましいが、声は小さくても会釈を付けたり目を見たりして心を込めてあいさつが出来ている子も認めてやりたい。
(体 よ か な 体 の 育 成)	①基本的な生活習慣を見直し、あいさつのできる児童を育成する。(礼儀正しい子供)	○春の記録に比べて秋の記録が上がった児童の割合が80%以上である。	<参考> 春の記録が前年度の記録に比べて3点以上上がった割合は62%	B	・新体力テストにおいて、自身の苦手な種目に注目したい。自分の1回目の結果を把握した上で、自分が伸ばしたい種目を選び、1か月間ねらいをもって克服に取り組むようにする。 ・種目別にパワーアップできる時間を作り、個別指導を行う。	・春の記録から選んだ2種目の記録が伸びた児童は50% ・選んでいない種目も含めて、2種目以上の記録が伸びた児童は96%	B	・積極的に大学連携を行い、児童の運動能力をより十分に引き出すことができるように授業改善を図っていく。 ・業間休みの内容を見直し、運動時間を確保する。 ・企画やイベントを実施する際は、スケジュール表を提示するなど、児童も教師も見通しをもつことができるように計画、提案をする。 ・児童主体でリズムなわとびの計画を進めるようにする。そうすることで、自分たちで工夫したり、粘り強く練習し達成感を味わったりすることができるようにする。 <参考> ・「体育の時間や休み時間に運動するのが好きだ。」88% ・「『大学生と遊ぼうデー』は楽しかった」100%	・自己評価は適切である。
	②大学等と連携して、体育科の授業や保健指導、外遊びの充実を図り、健康で運動が楽しいと思える児童を育成する。大学生と遊ぼうデー(年間6回程度) 水慣れ、水泳、着衣泳等(年間4回) 表現運動(年間3回程度)	○「地域のことを学ぶことが好きだ。」児童90%以上である。	92%	A	・学校支援ボランティア等のご協力により、体験活動が充実し、児童の意識が高まっている。児童の学びたい意欲をボランティアの方々にお伝えしながら、継続して支援していただけるよう、折に触れて発信したり依頼したりする。	88%	B	・全体では達成状況が下がっており、後半になって意識が下がっていることが残念である。ただ、地域のことを学び、発信まで行えた3・4年生は100%の児童がAと回答しており、双方向の実践の大切さが分かる。今年度の締めくくりとして計画している、生活科・総合的な学習での振り返りを有効に活用したい。	・自己評価は適切である。 ・できることは協力したい。地域OO.に依頼し、地域の組織を活用すると良い。
学 校 づ く り プ ロ ジ ェ ク ト	①地域の教育資源(自然・文化財・施設)や学校支援ボランティア等を活用した体験活動を充実させる。(総社を愛す子供)	○「学校や子どもたちの様子を積極的に発信している。」保護者・教職員90%以上である。	保護者・教職員100%	B	・1学期からの取組を継続する。HPの「子供たちの様子」は更新が滞ることがあるので、できるだけ毎日更新する。閲覧数を増やすことも課題。HPの存在そのものを、PTAや地域の会議等で紹介する。 ・「学校支援ボランティアだより」の発行に向けて、準備をしておく。紙面にQRコードを掲載するなどして、閲覧数増加を目指す。	保護者96% 職員100%	A	・ボランティアの支援は、地域により子どもたちが支えられ成長できる大切な学習活動である。「学校支援ボランティアだより」には、そのことを伝えられるような活動内容を掲載する。また、来年度以降も支援を続けていただけるように、学校での取組を細かく発信する。 ・4名の新規加入があった。 ・学校だよりにはほぼ毎月、QRコードを貼りつけた。 ・市内4園にPRIに出向き、HPの存在を含め案内した。	・自己評価は適切である。